

た結果として其賃金が戦前の標準に回復せぬから、労働賃金を主とする貨物の価格は戦前の標準には復歸せぬが、器械の進歩によつて戦前以上に安値に製造せらるゝ貨物も出来るから、それ等の一切を平均した物價は大體に戦前の標準に回復する。

乙、此回の不景氣は十五ヶ年内外を繼續する。

以上豫言に關する理由は冗長になるから之を省略するが、兎に角に私は種々の實驗に考へた結果以上の通りに豫言したと同時に私の事業を縮小したのである。而して現在に於ける世界的物價の標準は一五〇%であると共に大正九年以來十ヶ年を経過したのであるが、不景氣は尙此後少くとも二三年間長ければ四五年間を繼續すると同時に物價は引續き下落する筈である。而して恐慌は概して一般民衆に於て豫期して居らぬ場合に於て突如として發生するものであるのに就ては、此回は己に政友會に於て之が發生を豫期して居るから、却つて發生せぬと見るのが當然である。而かも今日迄の不景氣は尙動く不景氣であつたのに對して今後は動かぬ不景氣が襲來するから肺病的である。而して現在に於て金解禁に對する準備が完成して居る乎否乎に就ては、解禁が新平價によらずして舊平價による以上は來る可き物價の下落は素より今日以上の

不景氣は是非に來るので、只問題はそれを解禁前に於て來らしむ可きであつた乎解禁後に於て來らすべきである乎の差であるから、本問題に關する限りに於ては政友會の云ふ處は單なる負け惜しみである。否な政友會の積極政策——借金政策を以てしては百年を待つも到底金解禁は出來ぬのであるから、彼等の反對は單に反對せんが爲めの反對である。(十一月五日稿)

十一月二十日號大阪毎日新聞朝刊の記事によれば、東西の大銀行は結束して金解禁後に於て政府及び日銀の方針に協力して二三の事を斷行する由であるが、其内に左の一項がある。

一、輸入防壓の爲めには場合によつては不生産商品の輸入に伴ふ取引を拒絶する事。

由來彼等は何を標準として不生産品と否とを決定するのである乎甚だオボツカナイ事である。蓋し或種の商品が不生産品である乎否乎の區別は各人の境遇と地位とによるので銀行は素より何人と雖濫りに之を決定する事は出來ぬものである。己に所有權を認め其所有物の處分に關する自由を認める以上は何人が何種の商品を需要し又は消費するともそれが公安に關係せぬ以上は斷じて之に干渉すべきでないのである。私は昭和も己に四年である今日に至つて尙且此種

の干渉主義が政府及び日銀の方針に協力するてふ意味に於て公然且平然と唱道せらるゝのを見て、我國に於ける自由の爲め悲觀せざるを得ぬのである。殊に平常私利と我利との以外に殆んど公益の何たるを辨ぜぬ銀行家によつて右様殊勝らしい事が唱道せらるゝのに就ては、私共は眉に唾して其舉動を注視せねばならぬのである。

## 附録第拾章 雜 件

### (1) 金儲はツマラヌものであるが職業は愉快なものである

現在の社會に於ける生活が頗る不安定で何時如何なる出來事に遭遇する乎も知れぬのに就ては、充分に金儲をして置かねばならぬ事は云ふ迄もない處であるが、併かも子女の教養と自己の老後とに對する準備が出來た以後に於ける金儲はツマラヌものである。殊に現在の社會が金儲本位である結果多くの金錢（即ち資産）を所有する事が社會的榮譽の表徴である事は病的であるから、彌やが上にも多額の金錢又は資産を収集するが爲め出頭没頭しつゝ或は各種の獨占權を創設し或は其従業員を搾取するが如きは痴漢にあらずんば病的である。

之に反して、自己の職業に關して社會に迷惑を生ずるが如き行爲を慎むと同時に、自己の職

業即ち社會に於ける生産に努力する結果が自然に金儲となるのに加へて、其事業に於ける自然の社交を享樂する事は、實に尊ぶ可く且愉快なる事である。蓋し人間として社交の必要である事は云ふを待たぬ處であるが、社交の爲めにする社交が形式と虚飾とを含んで居るのに對して、事業に於ける社交は簡單にして自然の社交であるから眞實に愉快なる社交である。而かも現今の社會に於て此の如き高尚なる意味に於て自己の職業と共に其社交を樂しみつゝあるものが果して幾人あるであらう乎。否な現今の社會は私が別項に記述した通りにヨリ大なる者がヨリ小なるものを壓迫しつゝ無理の仕合ひ較べをして居る社會で、最早尋常にして無理のない手段及び方法では其事業を經營し其生活を全ふする事が出来ぬ、例せば茲に相當多額の資本を投じて事業を經營するとして、現在社會の事情は頗る危険で安心する事が出来ぬ止むを得ず或は獨占權に據り或は國家の保護を求めるのであるから、其動機に就ては幾分酌量すべき事情がないではないが、而かも其下敷となりつゝある可憐なる階級に就て一考するに於ては、私は資力を有する側に對して是非共目前的には之を遠慮すると同時に永久的には現在の制度に關する根本的立直しに努力せらるゝ事を、要望せざるを得ぬのである。蓋し社會は共同生活であるから生

活の安定を得ぬものがあれば其安定を得て居るものも亦同じく其安定を失ふに至る可きは、私  
が他の著書に於て記述した通りに近所同士は貧富の度が平均して其粒が揃ふて居る事が双互の  
幸福である事に見て明白である。加ふるに現今無資力者に於て容易に獨立し得ぬ結果は富豪に  
於ても亦其子弟をして獨立せしむる事が不可能であるから、彼等は止を得ず其資産によつて生  
活せしめんとするのであるが、近來は財界に於ける變化と動搖とが急激にして且頻繁であるか  
ら、如何程の資産を分與するも或は破産の厄に會し或は其資産を有する結果として其子弟をし  
て放蕩兒たらしむる等の事情が生じて、其子弟の生涯を通じて其生活を安定せしむる事が困難  
である。斯くて現今社會は己に出ずるものは己に返るてふ原則通りに富豪に於て先づ悲鳴を舉  
げねばならぬ場合に到着しつゝあるのである。

多數の内には資本家に於て事業を經營せざるに於ては、労働者は働く可き事業がなくなるか  
ら、先づ各種の事業を安全にし資本家をして安心して其資本を投下せしむる事は必要であると  
稱して、暗に獨占權の創設又は關稅の保護の如きは止むを得ぬものであるてふ意見を仄めかす

ものがあるのであるが、彼等の誤謬である事は、資本は資本家に限つて所有すべきものである。てふ事が先入主となつて居ると同時に、資本は働く人即ち労働者が造るものであるから労働者に限つて所有すべく現今資本家に於て所有して居るのは獨占権によつて盗んだものであるてふ事を彼等に於て知らぬ事である。

(口) 地主に先見の明があつたとして

從來私が地主階級を攻撃したのは私が一再ならず説明した通りに現在に於ける地主其人を攻撃するのではない、彼等は土地が私有制度になつて居る以上は多數國民の内誰かゞ之を所有せねばならぬ結果として之を所有して居るのに過ぎぬものである。従つて責む可きは地主其人ではなく地主をして其土地を所有せしめて居る土地私有制度と地主てふ資格とである。而して私は從來努めて此邊の事情と區別とを説明したのであるが、而かも行文の都度、地主制度又は地主てふ資格と書く事は其語呂に於て面倒であつたのに加へて甚しく筆勢を殺ぐの嫌ひがあつた

から、單に地主と云ふて其制度を攻撃するのに用ひたのである。然るに現在に於ける地主の内其邊の事情を理解して乎否乎は知らぬが、私の所説に對して嫌忌の念を有せらるゝ向にして、「今日迄我等が土地を所有する事によつて莫大の利益を占めたのは我等に先見の明があつたからである」と云ふて、自己擁護に努めると同時に土地私有制度に對する意見の發表を避けらるゝのに就ては、私は更に各位に對して、(一)、何故に其先見の明を商工業其他苟も社會の進歩に資する所以の事業に應用せずして之を獨占権である土地の買占めに應用せられた乎と云ふ点、(二)、各位は己に土地の買占めがそれ程に有利である事とそれが獨占権である事とを承知せられて居つたとすれば、何故に從來は素より今日に於ても之が國有化に關して努力せられぬのである乎と云ふ点、とに就き、新に攻撃せざるを得ぬのである。要するに彼等は問ふに落ちずして語るに落ちて其獨占家振りを發揮するのである。

(ハ) 人間味があると云ふ事

政友會系政治家には人間味が多いと云ふ事は私が常に耳にする處であるが、人間味とは温情にして親分對子分的關係の謂ひであるから、彼等の黨派が理によつて結合せず利と情によつて集團する徒黨であるてふ事を明白して居るものである。

正義は讀んで字の如く取る所以でもない代りに與ふる所以でもなく全く正直一遍である事であるから、特定人は素より總べての人に對して等しく之を迫害せぬと同時に利益を與ふる事をせぬ事である。従つて正義の人には徒黨もなければ世間並の意味に於ける朋友もないのである。然るに現在の社會は、特定人を利益する事によつて其人の支持を受くるにあらざれば換言して徒黨又は朋友を造るにあらざれば、何事をも爲し得ぬ世の中であるから、温情が人間味であるとして歓迎せらるゝのに反して正義は薄情であるとして排斥せらるゝのである。

## (二) 社會的事業

社會に獨占權が存在する結果貧富の懸隔が生じて居るのに就ては社會的事業は目前の困難を

救濟する爲め必要であるが、而かも社會的事業は單に目前の困難を救濟するのみにて之を根絶する事の出來ぬものであるから、之を營みつゝある私的團體にして併せて獨占權打破運動をせぬものは、社會に於ける困難を永久に根絶する意志なくして單に目前の困難を救濟しつゝ永久に其事業を繼續せんとするものである。従つて農村に於ける伊勢講又は大師講等が敬神を名とした社交團體であるのと同様に社會的事業も亦社交團體であるから、彼等は自己の出資によつて之を經營すべく斷じて他人の出資を求むる事は出來ぬものである。然らざれば、彼等は右手に社會的事業を營みつゝ、左手に現在社會に於てそれ等の社會的事業を必要とする所以の根本的原因である貧富の懸隔に對して療治運動即ち社會運動を試む可きである。然るに彼等に於て後者を兼ね營む事なくして甚しきは之を營むものを蛇蝎視しつゝ之を永久に根絶し得ぬ社會的事業を營んで他人の寄附を求めゐるのは、其實は「自分等は永久に社會的事業を營む事によつて美名を博し且自己の社交を楽しむから爾曹は無限に之を援助せよ」と云ふのと同じにして、甚だ虫の良い云ひ分である。而かも彼等にして現在社會に於ては獨占權によつて奪ひつゝ飽食暖衣して居るものがあるのであるから、それ等の徒輩に對して寄附を求むるのは其虛榮心に訴へ

て之を出資せしむるものである、と云ふのであれば、それも亦社會に於ける一種の平均策に相違はないが甚しき迂遠なる方法である。加ふるに社會事業を目的とする團體又は個人にして富豪の寄附を求める結果は、不知不識に其意向を迎へて自然に富豪の肩を持ち却つて其困難を根絶せんとする社會運動即ち獨占權打破運動に反對する傾向を有するに至るから、彼等の事業は一見甚だ美なるが如くにして其實は好ましからぬものである、否な彼等の事業は一種のペテン的詐僞事業である。

### (ホ) 政友會に於ける地租移讓と民政黨に於ける地租法

土地の國有が實行せられた後に於ては、其地料即ち借地料は必ず市町村に於て徴收せねばならぬものであるから、政友會の地租移讓は其徵稅の方法として私の土地國有論に向つて一步を轉ずるものであると同時に、地租にして一度地方に委讓せられた後は市町村民をして地租増徴の餘地がある事に就き明白に感知せしむるものであるから、私は政友會に於ける惡辣振りに關

しては絶對的嫌厭を感じたのに不拘、何とかして同内閣を今一ケ年だけ延命せしめて同案を決議せしめたく希望したのであるが、此回民政黨政府に於て從來の地租條例を改正し新に地租法として地租徴收の標準を土地の賃貸價格によらんとする由である事も亦、其徵稅の主義其物が合理的であるのに加へて其結果は國民をして地租増徴の餘地がある事を周知せしむる所以であるから、私は同黨の改正案に對しても亦之に賛成するものである。茲に至つて現今一切の政治家は如何にもして地租の増徴又は土地の國有に觸るゝ事を避けんとして居るのに不拘、現在社會に於ける行き詰りは此の如くにして不知不識——一步又一步——地租の増徴又は土地の國有に近づきつゝあるのであるから、私は私に於ける主張の實現が餘り遠き將來でない事を確信するものである。

### (ハ) 我國婦人の解放

我國人が政治に無理解にして冷淡である事に就ては私の反覆記述した處であるが、早晚婦選

の實行せられんとして居る今日に於て我國の婦人が政治に關して無理解であるのは實に悲しむ可き事相である。私は年齢が年齢であるから今日迄可なり多數の婦人に接觸したのであるが、彼等が無理解であるのに就ては我國の小學校は素より高等女學校と雖何を教へたのである乎を疑はざるを得ぬと同時に、私は我國に於ける女中の多數が白粉を塗る事と子供を産む事との外餘り多くを知らぬものである事に驚くものである。斯くて國民の半數を占めて居る婦人に於ける無理解が我國の大不幸である事は云ふ迄もない處である。而して之を救濟する爲め特に最も必要な事は、家庭に於ける婦人の用事を少くして餘暇を與へる事と、婦人の内新思想を有して居る結果幾分出ンチャバリをするものに對して寛大である事換言して婦人を從來の桎梏から解放する事とである。

從來民法上に於ける婦人の權利に關しては相當に論議せられたのに不拘未だ多く論議せられずしてオミットせられて居る事は、遺産相続の場合に於て妻に對する分配の規定がないのと同様に家庭の實地に於ても亦同様其習慣がない結果、夫の死亡後に於ける妻は却つて其子に相當する相続人の妻から小遣錢を貰はねばならぬのであるから甚しく其威嚴を失墜する事、殊にそ

れが後妻である場合に於て最も然りである事である。蓋し我國の實地に於て後妻程ミジメなものはないのである。

斯くて我國の女子にして或は最初から或は一旦行き戻りをした後に於て獨身にして世を終へんとするも、それ等の女子に對して財産分配の習慣がないのに就き、それ等の女子にして何時迄も其家に同居する時は、相続人に對して懸り人として暮さねばならぬと同時に其相続人の妻に對しては所謂小姑として一生を終らねばならぬから、其家に止まらんとするも止まり得ず又は獨身生活をなさんとするも容易に許されずして、止むを得ずして其十中八九が後妻として他家に嫁いで不遇の生涯を送らねばならぬのであるから、悲惨の限りである。茲に至つて私は女子に對する分配の規定並に別家を立てる權利及び妻並に後妻に對する相続財産分配の規定を設けねばならぬ事を主張するものである。

最後に我國の父に於て其子女を盲愛する結果遊山等の場合に於て多く其子女を同伴する事はあつても、其妻を同伴する事が少なく其子女に對しては母である自己の妻に對しては却つて高等女中として家事にのみ齟齬せしめて之を虐待するのであるが、其結果は、其子女をして其父

に對しては相當の尊敬を感ぜしめつゝあるのに不拘、其母に對しては之を輕視せしめて、其母は素より延いては其父も亦共に不幸に陥りつゝあるのである。詳細に説明する事は徒に行文を冗長にする恐れがあるから直ちに結論に入るとして、此後は夫に於て遊山等の場合は——否な其他の場合に於ても亦——成るべく妻を同伴する等之を大切に取扱ふ事によつて自然に其子女をして其母を尊敬せしむる事が必要である。若しそれ其子女を遊山に同伴する事の如きは、現在に在つては彼等に於て其印象を遺し得ぬのに加へて彼等は成長の後其夫又は自己自身に於て遊山すれば充分であるから、其必要はないのである。

(ト) 尊敬せらるゝ人間となれ

他人に愛好せらるゝ事は嬉しい事である。而かも單に愛好せらるゝだけでは鳥獸其他の玩弄物と擇ぶ所はないのである。茲に於てや他人に信用せらるゝ人とならねばならぬのであるが、他人に尊敬せらるゝ人となる事は更に——必要である。蓋し愛好せらるゝ事は感情的であるの

に反して尊敬せらるゝ事は合理的である。

(チ) 尊徳先生と借財

尊徳先生は借財があれば之を神棚に張り出せと云はれたのであるが、其眞意は借財は爲してはならぬ事と人間に秘密があつてはならぬ事を教へられたのである。而して其内の秘密が悪いと云ふとに就ては、司馬溫公であつたと思ふが「自分は他人に誇る可き何事をも爲した事はないが其代りに他人に話す事の出来ぬ何事をも亦爲した事がない」と云はれたのは、即ち此秘密の排すべきである事を指摘せられたのである。

蓋し世の中には絶對的な善がないと同時に悪も亦ないのである。而してそれが善となり悪となるのは單に程度の差である。即ち雨が降る事は悪い事であるが餘り降らぬ事も亦悪い事である。働く事は良い事であるが餘りに働き過ぎる事も亦悪い事であると云ふの類である。従つて世の中に借財と秘密と云ふ事實がある以上は二つながら絶對に悪いものではない。



之も亦其場合によるのである。而して借財をしても良いと云ふ場合は其營業の擴張に際して絶對に他人に迷惑を生ずるの恐れがないと同時に之を公表して恥ぢぬ場合である。又秘密があつても良いと云ふ場合は主として他人の利益の爲にすると同時にそれが正當である場合である。

### (リ) 我國人の感激性

私は、從來新聞紙上に於て屢々特別に同情すべき事件の突發に會して俄かに困窮に陥つたものが生じた場合に際して各方面から相當多額の同情金が投ぜらるゝのを見て、我國人に於ける惻隱の情が旺盛である事を喜んだと同時に、其等の同情者は素より最初にそれ等の事件を報道した新聞紙等も亦其後それ等の者が如何に成り行つた乎に就き一向に無頓着であるのに關して、奇異な思ひをしたのであるが、其後之を考へた結果、赤の他人に對する民間側の同情としては一應其程度で充分と云ふ可く、それ以上又は其以後の事は國家に於て負擔すべきものである、従つて此点に於ける私の最初の考へは間違つて居つたのである。而かも之を再考してそれ程

に同情心を有するものにして、何故に進んで國家をして其後に於ける救済を完行せしむる爲め相當の施設をなさしむる事に關して輿論を喚起せぬのである乎に心附き、今更ながら、我國人が依然として感激性に富んで刹那的善根を施す以外に恒久的共助の精神に欠けて居るものである事、及び我國人が依然として其政治に注意せぬ國民である事、を悲しむものである。

此頃經濟國難と共に國債整理の必要が喧傳せられたのに就き、頻りに國債償還資金を献金するものがあるのは、我國人に於ける愛國心の發露であるから誠に有難き次第である。従つて私は決して献金其物に就て兎角の議論を挟むものではない、此邊は吳々も誤解のない事を希望する。而かも今日迄の國債の大部分が如何にして生じた乎、又斯くの如くにして今日迄の國債が整理せられた後に於て其國債が再び今日迄と同様の経過によつて増加せらるゝ恐れはないであらう乎、等に就き一考する時は、私は彼等に於て献金をすると同時に將來の禍根を根絶する爲め我國に於ける政治の改良に對して兎角の努力をする事を希望するものである。私は本願寺凝りの愚夫愚婦が只管に献金さへすれば極樂淨土に往かれるものとして、其献金の必要が如何に

して生じた乎、又は其献金が如何に使用せらるゝ乎、等に就き一向に無頓着であるのを見て、彼等の無理解と感激性とを憐まざるを得ぬのである。而かも彼等の献金が純精なる愛國心の發露である上に於て將來放漫政治家を恥死せしむる事が出來るとすれば、其結果は一丸にして二鳥を射るものであるが果して如何である乎、懸念なきを得ぬのである。

### (又) 北米人の文明と社會相

我國人が各自に其住宅を壯麗にして屏居するのに反して北米人が之を狭小にする代りに週末には全家を擧げて遠出をなし至る所のホテルに宿泊する事、及び我國人が各自に美術品を貯藏して之を虚榮の料とするのに反して北米人が之を美術館に收めて公衆と共に觀賞する事、等の差は、恰かも殷の紂王が方四十里の囿を造つて獨り樂んだのに對して周の文王が方七十里の囿を造つて民と共に樂んだのと同じの心理に出發するものである。私は此一事だけでも北米人が如何に聰明にして偏見から免疫せられて居ると同時に社會性に富んで居る乎を信するものである。

る。

### (ル) 都市に於て極貧者が多數である事に就て

現在都市に於て極貧者が多數であるのに就き、之を都市に於て富豪が多數である事實に結び付けて、直接其等の富豪によつて搾取せらるゝ結果極貧者が發生して居るものゝ如くに云ふ者があるが、事實は、都市は都市其物の生活に於て餘裕があるから富豪を生じたのに加へて、それ等の富豪から滲ほれ落つる利益が多いから、極貧者が都市に集中したのである。換言して農村には餘裕がなく無一物の極貧者は其生活が困難であるのに反して都市には餘裕が多く無一物の極貧者と雖生活し易いから、極貧者が都市に集中したのである。従つて現在の極貧者は都市に於て生じたのでなくして全國の各地から集中したのである。斯くて富豪を生じたのに加へて極貧者を集中せしめた餘裕は、土地が私有である結果都市が全國の農村及び植民地等から搾取しつゝある處のものである。

以上は一見甚だ駄辯の如くであるが、現在の社會に於ける富豪と貧民との發生に對して闡明する点が多いと信ずるから、之を記述したのである。

### (ヲ) 個人の生活方法

個人の生活方法は大きく分つて二つとする。其一は傳統的生活であり其他は合理的生活である。素より兩者共に絶對的のものでなく其差は共に程度の問題であるが、尙之を大別して如上二つに分ける事が出来るのである。而して傳統的生活は舊慣による生活であると共に多數に準ずる生活であるから其對社會關係は圓滿であるのに反して、合理的生活は舊慣を打破して其誤謬を訂正する所以の生活であるから其對社會關係は異を立てる如くにして圭角稜々たるを免れ得ぬのである。云ふ迄もなく社會は自己一人の社會でなく多數が共存共榮せねばならぬものであるから、如何にそれが合理的であるからと云ふても自己獨り異を立て、快とする事の出來ぬ事は明白である。従つて既述の通り程度の問題であるが、而かも「善惡共に多數に従ふてさへ

置けば大過がない」と云ふが如きは餘りに無理想である。換言して社會は共存共榮であるには相違はないが更に又日進月歩すべく停滯すべきでないから、相當程度に於ける合理的改良は之を怠る事の出來ぬものである。

それに就き私共に於て差當り一考せねばならぬ事は、現今次から次に疑獄事件が発生しつゝあるのに就き、若し私共の知人若しくは朋友にしてそれ等の事件に連坐したものがあつたとして私共に於て執る可き態度如何に就てある。之を傳統的方面から云ふ時は其場合に於ては朋友である以上は逸早く駈け着けて之が救護の方法を講ぜねばならぬのであるが、更に之を合理的方面から見て、苟も國法破壊の嫌疑を蒙つたものに對しては如何にそれが朋友であるからと云ふても、其本人に對して救護の方法を講ずる事は餘りに徒黨的であるから、之を慎まねばならぬ事である。而かも其家族は何等與かる處のないものであるから其家族にして平素の馴染がある間柄であれば之を慰問するのが至當である。要するに兩者の差は朋友關係を徒黨的と見る乎又は社會的正義の戰友と見る乎の差であるが、之を我國に於ける實際に見て前者の態度を執るにあらざれば謂ふ所の朋友を造る事が出來ぬのであるから、實に困つた次第である。

## 附録第十一章 自由に對する私の理想

本文を除いた本書の原稿全部を書き終つた後に於ける十一月二十二日、東京市に於て發行する雑誌「人道」十一月號を讀んだのであるが、私の先輩にして社民黨の執行長である安部磯雄先生が十月下旬日本青年會館に於て講演せられた筆記であるとして掲載せられて居る、「私の宗教觀と社會觀」と題する一文中に左の一句があつた。

「社會の諸關係が未だ幼稚なりし時代に於ては貧困は個人の責任であつた。確かに稼ぐに追ひつく貧乏はなかつたのである。しかし現代の社會は昔とは全く事情を異にして了つて社會の組織そのものが多數の貧乏人を作り出すのであるから、即ち自由競争と云ふ事が社會の柏車となつて産業を發達せしめて居る間はいくらでも貧乏人が群出して來るのである云々」。

以上に關して同誌が「本文は先生の校閲を経て居ないから文責は一切記者にある」と斷つて居るのであるから、同文中には相當字句の脱漏があるので恐くは先生の主旨を誤つて居るので

あらうと信するが、而かも現在の我國に於ては自由競争を非認する學者が多數であるから、私は本文を追加するのである。

人間は社會的動物であると同時に個人的動物である。而して人間は野蠻國にあつては主として個人的であるのに反して、文明國にあつてはヨリ多く社會的であるから人間は社會的である事の方がヨリ大切である乎の如くであるが、人間は文明國に在つては野蠻國に比してこそヨリ多く社會的であるのに過ぎぬので、其實文明國自體に於ても依然として個人的である方が主であるから、人間は個人的である事の方が主で社會的である事の方が従である。(但し人間は個人的である方が本態であるのに反して社會的である方が従であるから、社會的である方が尊いと云ふ乎も知らぬが、それは本文の場合に關係のない道德論である)、斯くて人間は個人的である事の方が主で社會的である事の方が従である結果は、各個人は絶對的自由である事が本態で單に、政治上に在つては社會の公安を害する事項に關して、經濟上に在つては他人に損害を生ずる獨占權に關して、共に相當の制限を受けるだけである。之を先生の說に適用して各個人

は獨占權ならざる事柄に關しては自由競争を原則とし單に獨占權に屬する事柄に關してのみ國家の統制を受けるものである。

先生の言であるとして記述せられて居る處の、現在社會に於て貧乏人を造り出しつゝあるのは社會の組織が悪るいからであるてふことに就ては、私も亦異論はないのであるが、それなるが故に自由競争が悪るいと云ふ結論は生ぜぬのである。何んとなれば、自分自身の事を自身に於て處理する所以である自由競争は最も簡單にして有効なる生活方法であると同時に、先生が自由競争であるとせられて居る現在社會に於ける自由競争は眞實の自由競争でないからである。之を事實に徴して現在の自由競争は、或は政府の保護に浴し或は獨占權を擁して、(而して兩者は共に獨占權者である)、他の獨占權を有たぬものと共に同一の駈せ場を走りつゝある形式的自由競争にして、其實は不自由競争であるからである。従つて先生と共に現在社會に於ける自由競争を非認しつゝある方々は、須らく先づ以上一切の獨占權を廢して社會の全員をして全く同一條件の下に同一の出發点によつて出發せしめた後に於ける自由競争が如何なるものである乎を考察せねばならぬのである。蓋し眞實の自由競争が行はれた後に於ける社會は各個人

に於ける健康及び賢愚等の差による収入の不均衡以外に於ける不公平は生ぜぬのである。

更に經濟上に於て自由競争を非認する結果は議論の順序として政治上に於ける個人の自由も亦非認せねばならぬのである。従つて如上先生の說として記述せられてある說にして眞實に先生の意見であるとすれば、平素に於て政治上の自由を主張せらるゝ先生としては全くの矛盾にして、其結果は露國に於けるソヴェート主義及び伊國に於けるファッシヨニズムを是認せらるゝ事となるのである。

之に反して經濟上獨占權に關するもの以外に就き絶対の自由を要求する私は、政治上に於ても亦公安に關するもの以外は絶対の自由を要求するものである。而して經濟上獨占權を全廢した後に於ける自由競争の結果は、各個人の収入を豊かにし其生活を向上せしむるのみならず更に其教育を發達せしめて各個人を聰明にするから、政治上に於て絶対の自由を與ふる場合に於ても、社會の公安を害する様な議論をする者がなくなるのに加へて、偶々其様な議論をする者があつても社會は之を頓着する者がなくなるから、社會は絶対に安全である。

若しそれ個人の賢愚及び強弱の差と獨占權全廢後の社會に於てそれ等の差に準じて生ずる貧

富の差とは、現在の場合一應は之を止むを得ぬものとせねばならぬのであるが、而かも獨占權が全廢せられた後に於ては個人の賢愚及び強弱の差も亦其度を減じ従つてそれ等の差に準じて生ずる貧富の差も亦其度を減すべきは明白であるから、獨占權は單にそれ等の差がある点からのみ見るも一日も早く之を全廢せねばならぬものである。

## 附録第十二章 靈魂の有無に就て

本書の印刷が大略に終了せんとする今日に至つて更に此一文を添へねばならぬ事情が発生した。それは本書の卷頭に掲げた「本書を亡娘幸子に對する記念出版とするに就て」と題した一文中に記載した通りに、私が平素に於て人間に靈魂がある乎否乎に關して不可識であると主張するのに就き、靈魂實在説を確信せられて居る私の親友から招待せられて、豫ねて大本教以來有名であらせらるゝ淺野和三郎先生によつて主張せられて居ると同時に其實験を示されつゝある心靈科學協會主催の試験を實見したのに就ては、私にして本書の刊行に際して同文を掲載した責任上私の實見の結果に關して何とか私の意見を發表せねばならぬからである。

扱て同試験は十二月三日午後七時から市内東區博勞町四丁目服部時計店支店三階の一室に於て實行せられたのであるが、其方法と結果とは大體に十月廿九日大阪毎日新聞社樓上に於て實行せられて、淺野先生が雑誌「心靈と人生」に掲載せられて居ると同様であるのに加へて、

大毎に於ける試験に列席せられた數名の紳士は當日の試験にも亦列席せられて均しく其不思議に驚かれたのであるから、私も亦同日の試験が種や仕掛けのない全く真正銘のものであつた事に就ては之を信せんとするものである。従つて緊縛せられて全く身體の自由を抑止せられて居つた靈媒者龜井氏（年齢二十九歳の青年にして關西大學卒業生と稱せらるゝ方）によつて、同氏及び我々の面前に据へられてあつた机と其机上に於て所挾き迄に排列せられてあつた各種の玩具とが、何等人力を加ふる事なくして其室内を飛揚したと同時に其玩具からそれ／＼の音響を發した事が單純に不思議であつたのに就ては、一言の異議を挟み得ぬのである。従つて同協會員各位はそれ等の不思議は到底人間業で出来ることなく特に本人は緊縛せられて居るのであるから、全く靈媒者である龜井氏に憑依して居る靈の働きであると云ふのであるが、私は單に同夜の試験丈けでは之を首肯し得ぬものである。何となれば、假りに茲に數世紀前の人間を墓中から拉し來つて現在に於ける電氣に關する事象を實見せしむるに於ては、彼等は必ずそれは不思議である必定靈の働きに相違ないと感ずるであらうと信ぜらるゝからである。それと同様に此回到ける試験の結果も亦不思議は不思議に相違ないが、而かも不思議であるからと

云ふてもそれを直に靈の働であると云ふ事は、何んとなく其間に於ける考ふ可き幾多の過程を無視した速断ではない乎を疑はざるを得ぬのである。

更に淺野先生によれば我國に於ける他の靈媒者である中西夫人の所作に於ては死者の靈が同夫人に憑依し來つて種々の物語をする由であるが、私は未だ其種の試験を實見せぬのに加へて其試験が何處迄正確である乎も亦知らぬのであるから、現在の場合に於ては私は依然として私の不可識説を固持せねばならぬのである。

而かも假りに人間には肉體以外に靈があり肉體の死後と雖其靈が存在して永久に不滅であるとするれば、私は差當り左の疑問を生ずるのである。

一、靈魂が不滅であるとするれば、其靈魂は創造せられた物でなく大古から存在して居るものであると考へねばならぬのであるが、靈魂にして無限の古から無限の終り迄永久に且不變に存在するとすれば、現在の世界が現在の如く人間が住居し得る程度に冷却し且形成せられなかつた大古に於ける熱烈なる星雲時代と、此後現在の世界が冷却して現在に於ける月球と同様に一切の生物が住居し得ぬ場合に至つた時代とに於ては、靈魂は共に如何なる状態にあり又

はあるであらう乎と云ふ点。

二、靈魂が創造せらるゝ事もないと同時に死滅する事もないとすれば、世界に於ける靈魂の數は永久に一定數を保持して増減がない筈であるが、果して然らば佛者の所謂輪廻説と如何なる關係にあるであらう乎と云ふ点。

以上の外次から次に種々の疑問を生ずるのであるから、私は靈の有無に就ては依然として不可識説を改め得ぬと同時に、此回の試験に於ける不思議に就ても亦同じく不可識であるが、寧ろ之を我等が未だ發見し得ぬ腦髓其他に於ける物質上の靈妙なる作用であると見る可きではない乎、と考ふるものである。

蓋し考へ方によつては、人間に靈魂がある乎否乎従つて人間に死後の生活がある乎否乎の問題は、人間に取つては何物よりも最も大切な問題である。何となれば人間に於ける現在世界の生活は僅かに百年内外の生活であるのに對して死後の生活は永久であるからである。之れ古來世界の全民族が例外なく其未來に關して威脅せられた結果、巨額の資金を喜捨して宏大なる寺院を建築し、現在に於ては却つて之を持ち餘しつゝある所以のものである。従つて私は斯問題

を以て全然無用の沙汰と云ふのではないが、而かもそれは現實の問題でないのに反して、現在の世界に於ける生活は現實の問題であると同時に、現在の世界は醜穢を極めて殆んど我等の生活に堪へぬ状態にあるのであるから、一日でも早く之をヨリ良きものに改良する事が最も大切にして且急務である。加ふるに我等にして現在の世界に於て未來がある事を知らなかつた爲めに未來に於て神罰を蒙るものであるとすれば、それは靈又は神が現在の世界に於て靈の存在に關して明白に指示せなかつたからであるから、其責任は靈又は神にあると同時に靈又は神は人間に對して陷阱を設けて之を陥れるものと云ふ可く、従つて甚しく現在に於ける道德思想に反するものである。之に反して我等に於て未來があると否とに關しては何等研究を用ゐず従つて無智であるとするも、現在に於て自ら治めて他人に迷惑を生ぜず兼ねて其餘力がある場合に於て現在の社會の改善に努力するに於ては、其結果は現在の社會に於ける道德思想に合致する所以であると同時に未來に於ては靈又は神の賞讃を博する所以であるから、和戰兩様の準備である。而かも現在世界に於ける生活を改良し餘裕あらしむるに於ては、現在に於ける民衆は聰明となり靈の問題も亦一層に明白に解決し得る筈であるから、私に取つては未來よりは現在の方がヨ



リ大切であると同時に靈の有無は之を不可識として差支がないのである。

人間は自由であると同時に其面が異るのと同様に其思想も亦千差萬別であるから、それが社會に損害を與へぬものである以上は各自の研究は自由であらねばならぬのである。従つて私は此種の研究に對しても亦眞實に尊敬を拂ふものであるのに不拘、以下の言をするのは私が皮肉である乎の如き誤解を招く恐れがあるのであるが、私は重要な事實を明白にする所以であると信ずるから之を記述する。

同協會の會長である淺野先生は、「人間に靈があるとして其靈はキリスト教又は佛教に於て指示して居るが如きものでなく全く其性質を異にするのみならず、現在龜井氏に憑依して居る靈は印度人のそれである」と云はれて居るのに不拘、全然異つた思想を有する各種の宗教信者にして共に同協會に於ける研究と實驗とに協力しつゝあるのは、要するに彼等が最近に於ける科學の發達に伴ふ無神論の擡頭に關してヨク／＼困ふじ果てた結果、彼等はそれ等の無神論に對抗して共同戦線を張りつゝ所謂大同によつて團結して居るのであらうと信ずるが、而かも

キリスト教信者にして印度人の靈が龜井氏に憑依して居ると云ふが如き説に協力するのは餘りに不可解である。更に、人間が平等であるのに就ては其靈も亦其人間に對して平等であらねばならぬ——換言して死んだ靈が生きて居る人間以上であり得ぬ——のに不拘、死んだ者の靈が生きた人間に憑依して之を保護し且指揮するてふ事も亦おかしな云ひ分である。茲に至つて私は現今有神論者に於ける苦惱を察せざるを得ぬのである。

昭和四年十二月二十五日印刷 定價金壹圓  
昭和四年十二月三十日發行 郵稅金六錢

著者 秋守常太郎  
大阪市住吉區天王寺町二二七九番地

發行者 秋守常太郎  
大阪市住吉區天王寺町二二七九番地

印刷所 下市慶文堂  
大阪市港區八雲町一丁目十三番地

175-290

秋守常太郎著

第二版增訂

(旅旅行叢書第一)

北米土產 爬羅剔抉

定價金壹圓五拾錢

郵税金八

錢

著者曩きに北米を旅行し歸來北米に關して理想的であるとは云はぬが現今世界を通じて最も優れた國であるとして手放しに禮讚して居る。而して其理由とする處は著者の獨特の壇上である。斯くて著者は之を我國の事物に徴して大膽に爬羅剔抉した結果が本書である。

大阪市北區堂島上二丁目三十六番地

發行所

大阪毎日新聞社

振替口座大阪四五〇番

秋守常太郎著

(旅行叢書第二)

# 歐洲土産

印刷實費金五拾錢

郵税金六錢

本書は北米旅行に對する「北米土産」と共に著者に於ける旅行叢書の一つであるが、著者の歐洲觀は例によつて例の如くで頗る異彩を放つたものである。而して其一班として著者は歐洲に於ける古美術品に關して以下の通りに云ふて居る。曰く、「歐洲に於ける最大の觀物は其古美術品であるが、其實歐洲にそれ等の古美術品があるのはそれ等國民の恥辱である。何となれば、謂ふ所の古美術品は、貴族及び富豪と稱する掠奪階級が一般民衆の無智に乗じて掠奪した結果、美術家と稱する非經濟的天才を養成して金と暇とに任せて作製せしめた玩弄物であるからである」と、本書が如何に有り來りの旅行記と其類を異にする乎を知るべきである。

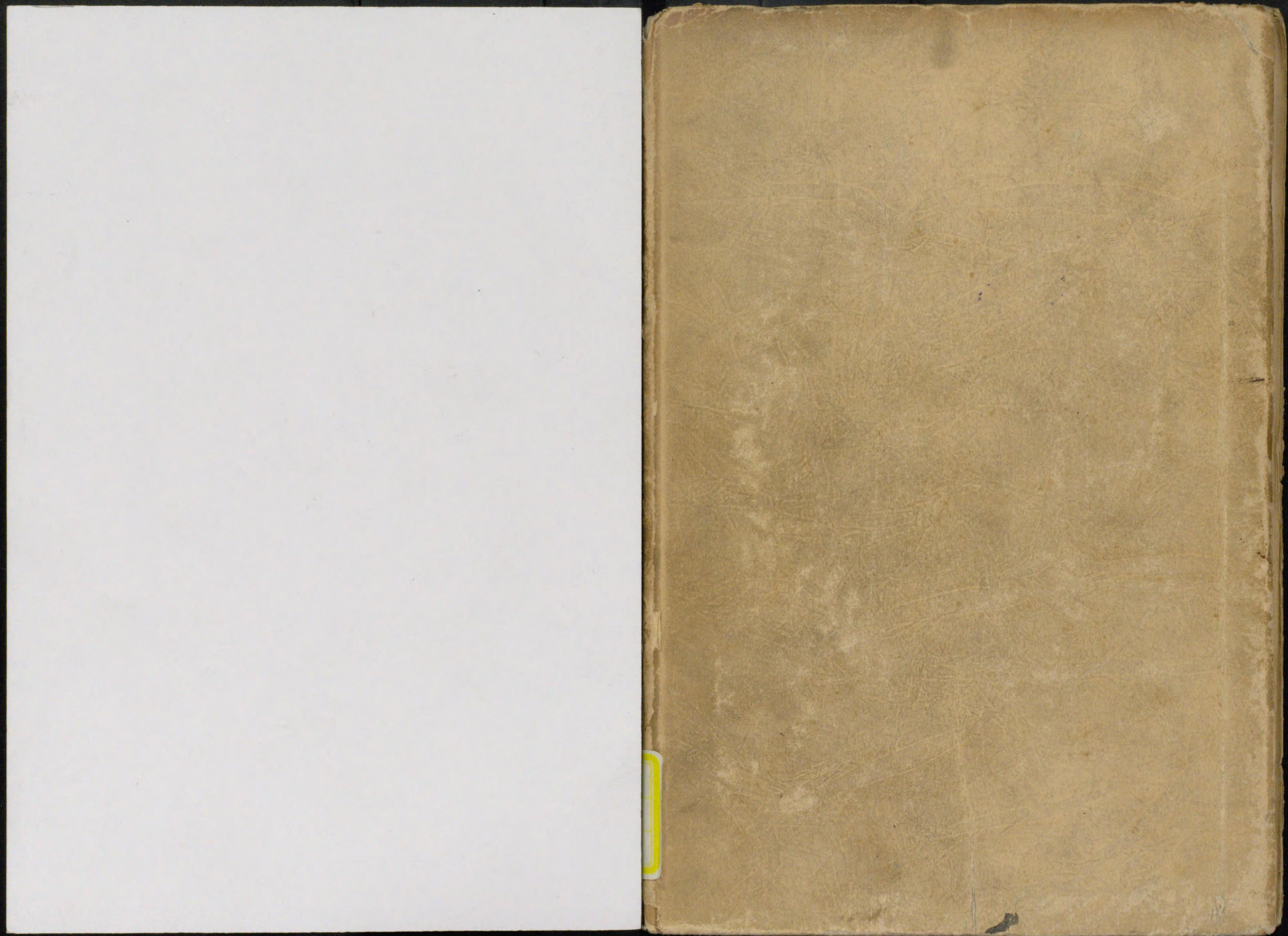
大阪市住吉區天王寺町二二七九番地

發賣所 秋守常太郎

602  
3

歐洲土產

大西洲

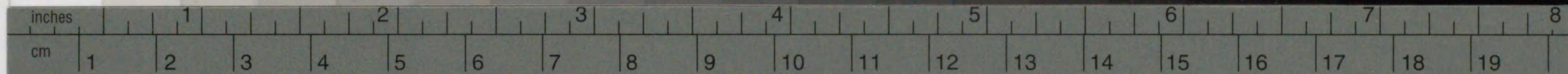


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

